藤女子大学
藤女子短期大学　　No.40

図書館だより

'91.12

『クリスマス・キャロル』への思い

川上美津子（英文学）

今年もまた本屋の店頭にきれいな装丁のクリスマス・ブック，特に子供向けの美しい色の，楽しい絵本が並ぶ季節になった．毎年この頃に通読したいと思う本がチャールズ・ディケンズの『クリスマス・キャロル』で，何度読んでも変らぬ面白さと感激を味わうことが出来る．この物語を初めて知ったのは高校の英語の授業で使った副読本によってである．それは平易な英語で書き直されていたので，結構楽しく読んでいたように覚えている．

ディケンズはクリスマス用の軽い読み物を毎年一篇ずつ書くことにきめて，『クリスマス物語』と呼ばれる一連の物語を出版した．その第一作が『クリスマス・キャロル』(1843年出版)

Charles Dickens

目　　次

『クリスマス・キャロル』への思い
川上美津子 …… 1
特集：藤女子大学図書館 —— PART 2
利用者の声 …… 3
資料紹介
センダックの絵本 …… 9
復刻版「紅苜蓿」 …… 10

であり，最も広く愛読されている．物語の内容を簡単に述べると，主人公のスクルージは冷酷な守銭奴で，クリスマス・イヴに甥から「クリスマスおめでとう」と言われても，おめでたがる理由がどこにあるんだと答えて相手にしない．その夜，7年前のクリスマス・イヴに死んだ共同経営者マーレイの幽霊が彼の前に現われる．生前のマーレイもスクルージ同様，強欲と金銭勘定に明け暮れして，冷酷と無慈悲のため，死んだ今では一年のこの時節に一番悩み苦しむのだと語る．そしてスクルージが自分のような運命におちいらないように，三人の幽霊が現われ，救済の道を教えてくれるだろうと告げて消え去る．まず最初に「過去のクリスマスの幽霊」，次に「現在のクリスマスの幽霊」，最後に「未来のクリスマスの幽霊」が現われ，それぞれスクルージに過去と現在と未来における彼自身の姿を見せる．彼は悲しくなり，反省し，慈悲を乞い，祈ることによって，人間性をとりもどし，善人に生れ変わるのである．夜が明けてクリスマスの朝，彼は心から「クリスマスおめでとう」と言う．作者ディケンズはこの物語の終りに，「もし生きている人間でクリスマスの祝い方を知っている者がいるとしたら，彼こそその人だと常も言われていた．」と述べた後で，ティム坊やの言葉をかりて，「神よ，私たちをおめぐみ下さい．みんな一人一人を！」と結んでいる．身体の不自由なティム坊やの清らかな心が暗い大人の世界に明かりをともしてくれることを作者も読者も信じたいのである．

ディケンズの描く貧しいロンドンの下町のクリスマス風景は，霧にかすみ，ガス燈にくすみ，そこにはみすぼらしいが，にぎやかな街路とレンガ造りの家並があり，重くたれこむ空の下であっても，「最高に晴れ渡った夏の空気や輝く太陽でも及ばない楽しい気分があたりにみなぎっていた．」 作者は貧しい人々にあたたかい視線をそそぎ，作中に善意と愛情に満ちた賛歌をうたいあげている．

毎年クリスマスに物語のプレゼントをしてきたディケンズが亡くなった年(1870年6月9日)，ある一人の子供が父親に「パパ，ディケンズおじさんは死んじゃったの？ じゃ，今年からはサンタクロースは来ないんだね？」と言ったという逸話が残っている．

三年前のクリスマス・イヴに，ケンブリッジのあの荘麗なキングズ・カレッジ・チャペルで聞いたクリスマス・キャロルは厳粛な雰囲気の中でうたわれ，天使のような聖歌隊の美しい歌声は聴衆を魅了した．その荘厳な聖歌とディケンズの本から聞えてくる人間愛の賛歌とではどれほどの違いがあるのだろうか．ともかく文学や音楽，絵画などの芸術作品から喜びや幸せを感じられることは有難く，うれしいことである．

Charles Dickensの主な作品

（当館所蔵分より一部紹介）

『The adventures of Oliver Twist』
澤村寅二郎注釈 研究社 1982 (933.8/D72)

『ディヴィド・コパフィールド 1-6』
市川又彦訳 岩波文庫 1988 (933.8/D72/1-6)

『人生の戦い 一つの愛の物語』
篠田昭夫訳 成美堂 1990 (933.8/D72)

『キリストの生涯』
入江勇起男訳註 英宝社 1959 (933.8/D72)

『骨董屋』
北川悌二訳 三笠書房 1973 (933.8/D72)

『二都物語』
本多顕彰訳 角川文庫 1974 (933.8/D72)

『大いなる遺産 上・下』 山西英一訳
新潮文庫 1984-1985 (933.8/D72/1-2)

『オリヴァ・ツウィスト 上・下』
本多季子訳 岩波書店 1989 (933.8/D72/1-2)

『クリスマス・カロル』 世界名作全集15
安藤一郎訳 平凡社 1958 (908/Se22h/15)

『Chirstmas stories』
World Pub. Co. 1949 (933.8/D72c)

特集：藤女子大学図書館 ―――― part 2　利用者の声

前号の図書館だよりで，「藤女子大学図書館の歩み ―― 開かれた図書館をめざして」という特集を組みました．私達図書館の職員は"開かれた図書館"を目指して努力してきたつもりですが，果たして利用者はどの様に感じていらっしゃるのでしょう．
今回は教員と学生の方々に"利用者の声"をお聞きしました．お忙しい所，御協力頂きましてありがとうございました．この貴重な御意見を受けとめて，今出来ることは何かを考えながら，より利用しやすい図書館をめざして仕事をしていきたいと思います．
どうぞこれからも気軽に声を掛けて下さい．

「開かれた図書館～教員の協力が必要」

知地英征（家政科）

編集委員の方から「利用者の声」に載せる原稿を依頼されたが，毎日の図書の貸出サービスや山のような新刊本，返本，カードの整理などを拝見し，これだけの職員数でよくこなしているものと感心することばかりです．また，閉館後も夜遅くまで残業をされておられる姿に頭が下がります．

私がこの大学に赴任して３年目になりますが，前任地での大学図書館と比較しながら，今後の図書館のあり方について考えてみたいと思います．まず，前の大学の学部に付属図書館が出来ることになり，各学科に分散していた図書を中央に集めることになったが，一部の学科，教官の反対に会い苦労したことを思い出します．幸い本学には一つしか図書館がないので，そのような問題はありませんが，一つだけ残念に思うのは，雑誌類が各研究室に分散していることです．新しい情報を少しでも早く多くの人の目に止まるよう図書館に移管することを望みます．

次に，４部門，５部門の古い教科書や資料は新しい版のものに切り替えて頂きたい．学生達がレポートを書くのに古い本しかないとの苦情をよく聞くことがあります．この作業は図書館職員だけでなく，その専門分野の先生たちの協力が必要になるので，図書委員会で是非取り上げて頂きたいと思います．また本学の図書館の利用者は圧倒的に学生が多いので，利用度の高い本は辞書類と同様２冊以上そろえることを望みます．

閉館時間については，現在の職員数ではこれ以上は望めず，むしろ土曜日も午後まで開いているので大変ありがたいと思います．週末の午後が資料，文献を調べられる時間でもあるので，花川図書館でも同じようなサービスが受けられるよう強く希望します．

学外にある文献は非常に早く取り寄せて頂けるので，感謝しています．新年度には情報検索用コンピューターの導入が予定されているそうですので，キーワードや著者名を入力するとChemical Abstract の author index や subject index からの検索のように，５年間ないし10年間分の雑誌名，タイトル，要約がわかるようなシステムができることを期待しています．

最後に，長期貸出の図書は，１週間または１ケ月に１度は戻し，必要とあれば，再貸出の手続きをするよう提案します．そうすれば紛失することもないでしょう．図書館の本は本学の学生，教職員の共有財産であり，長期間研究室で眠っている本は図書ではなく，徒（効果のない）書か死書である．

— 利用者の声 —

図書館に関して思うこと

漆崎征人（国文科）

本学図書館への利用者としての声を求められた．日頃その恩恵に浴している身としては，建設的な提言でもって応えなければならないところではある．ただ，図書館に関わると思しい要請であっても，人員数，図書館のスペース，経費，責任の所在等々，現状では，概ね無い物ねだりに過ぎないかもしれないが，思いつくままに，いくつか要望を挙げたい．

まず，通常の開館時間や休暇中の開館期間をもっと長くすること．講義が五講目まであるうえに，借り出せない文献・資料も存する以上，五講時終了後もある程度開館されていることが望ましい．卒業生にも開放されているとはいえ，夕方まで勤務がある人の場合，今のままでは，極めて利用しにくいのではないか．また，休暇中は，一日をフルに図書館の利用に充てることができるという点で，開館日をなるべく多くしてほしいものである．

次に，利用目的に応じて館内のスペースを区分すること．会話可と不可との場所を仕切るということもあるが，資料の多様化に対応し，パソコン室や映写（ビデオやレーザーディスク等）室のようなものを設けることも望まれる．

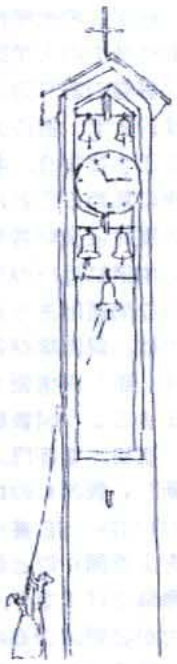
次に，文庫・新書の収集に関して，図書館で購入することになっているのであれば，総て揃えるようにすること．文庫や新書でしか読めない作品でありながら，直に絶版になるものも少なくない．刊行の際には，必ず購入し，欠けているものについては，復刊を待つばかりでなく，古書店にあれば積極的に求めて欲しいと思う．

次に，複写機について，巷間ではコピー料金が10円以下が一般的だから，セルフサービスなのだし，料金を10円に下げるべきだろう．

最後に，国内外の図書館を時折り視察し，その優れた点の導入を検討することも必要だろう．

飯村しのぶ（家政科）

要望の第一は，図書の分類について．既存の分類法は充分承知している．けれど，今，学問は学際的，総合化の傾向にある．その点に充分対応しきれているだろうか．例えば，家政科学生に読んで欲しい図書を指定しても，分類法によれば，社会学や社会福祉，女性論，女性史，児童，心理その他の棚に分類されてしまう．とくに家庭経営，家族関係，家庭経済といった分野になると，タイトルからは家政学には分類されない本がたくさん必要になる．その場合，学生に捜し出す能力とエネルギーを期待するのは勿論だが，教員としても自分が指定した本などはせめて関連図書が一つの棚に集まっていてくれたら助かる．家政学をもっと身近かな生活の学として学生達にも興味・関心を持ってもらうためにも，既存の分類法を基礎に，それを越えた明るく楽しい利用へ向けて応用的分類を考えていただけないものだろうか．



二つ目は，閲覧室の木製書棚をスチール棚にして，両側から本がとれるスタイルにした方がよい．そうすれば，もっと光が入り室内も明るくなる．三つ目は，書名・著者名索引カードの棚を移し，入ってすぐのスペースをオープンにしてみてはどうか．カウンターから利用者の動向も察知しやすいし，おしゃべりも少なくなるのでは．四つ目は，書庫の入口をもっと広くできないものだろうか．

また，書庫内の机と椅子はすべてなくしてもよい．広くなった閲覧室との往来がしやすくなれば不便はないだろう．災害予防，盗難防止にもなる．要するに二つ目以降は，図書館内部のイメージチェンジをはかることになる．以上，物理的，経済的困難を無視しての意見．

「開かれた」図書館に寄せて

伊藤義生（英文学）

大学図書館の頭に「開かれた」という但し書がつくと，その意味合いは大きく二つに分かれよう．一つは入館者に制限をつけずに一般図書館同様の利用が出来るということであり，もう一つは館内利用のオープン化ということである．前者に関しては，大学図書館がその大学の目的にかなう資料を中心に収集し，利用対象も所属する者を想定していることからそう簡単なことではない．しかし直接の利用は兎に角，外部からの各種の照会に本学図書館は十分「開かれて」いると確信している．一方後者のオープン化については全接架方式を採用している点で大いに評価出来る．この方式の便利さは何物にもかえ難いが，「開かれて」いなかった時代とは異質の負担を館員にもたらしているのであろう．欲をいえば「開かれて」いる状態が利用時間の延長にまで及ぶと申し分ない．更に図書館に接して資料やレポート作成について話し合えるゼミ室のような部屋があれば，ますます「開かれた」図書館となるだろう．幾何級数的に増え続ける資料の管理にはスペースの確保は勿論，前号「図書館だより No.39」が指摘している機械化の方向は不可避である．この機械化は，決して人員削減を意図するものではなく，むしろきめ細かいサービスのために人手を必要とする部門により多くの人員を配置するためのものである．機械化による合理的管理と人のぬくもりが感じられる雰囲気とを調和させていくことが今後の課題であろう．本を借り受ける時，「はい，どうぞ」という言葉と共に人の手によって渡されるのはよいものだ．というのもやはり書物は人の手になったものであり，このふれ合いが「より開かれた」図書館につながっていくからである．

石田晴男（日本史）

おそらく書いても，史学科がないのだから仕様のないことだと言われるのが落ちですが，蔵書についての感想をつぶやいてみます．室町・戦国時代を専攻する立場からいいますと，研究の成果の成否は史料の有無多少に関わります．本館に特別に収集された，あるいは寄贈された「古文書」などが所蔵されていない以上，依拠するのは刊行された史料集ということになります．そこで，『大日本史料』や『群書類従』や『史料大成』があることは大変有り難いことです．しかし，これだけで関心のある問題を追究できるわけでもなく，それ以上に必要とされるのは，県史・市史といった地方史などの史料編です．地方史は大変盛況で，多くの県史・市史がすでに刊行されています．その中には，『福島県史』『神奈川県史』『広島県史』など特に高い評価を得ているものもあります．しかし，それらはいずれも書庫で残念ながら見出すことができません．また，近年は巻数の多いものが増え，既刊本も含めると多くを購入することはできません．これらの地方史は発行部数も少なく，すぐ品切れになり，古本屋で高値がついて並んでいます．その本をコタツの回りに取り散らかして，すべて史料をめくって見てみたいというのは夢の夢なのでしょうか．さらに史料以

外でも，本学に学科のない法制史・経済史・建築史，あるいは文化人類学関係の本が乏しいことも残念なことです．どうにかならないものかと思ってはみるのですが，こうした場合の反応は，北大図書館などを利用して，ここには期待しないか，徐々にそろえたらという声が聞こえてきて，それしかないですかねと答えるかです．そこで別の話に移り，たいそれた願望はしぼんでいくことになります．

ほしい．文学ばかりでなく，言語学の図書も増やしてほしい．また，日本語による外国語学習書には限界があるので英語による文法書の購入を検討してほしい．たとえば，Hodder and Stoughton の TEACH YOURSELF BOOKS シリーズを揃えてみても面白いと思う．

最後に，ＬＬ演習室が設けられ，視聴覚教材が充実することを切に願う．

利用者の声

矢田真理子（昭和63年英文学科卒業）

本のある場所が私は好きだ．書棚に整頓されて黙っている活字達も，人の手に取られて繙かれると生命を帯びたように動き出す．言葉というものはどうしてこんなにも力を持っているのだろう．

学生時代はもちろん卒業後も大学の図書館を利用しているが，未だに効果的な利用方法はわからない．「図書館学」も発達している時代であるから，利用者に対してこの分野の知識を提供する機能が発達するよう期待している．

最近になって，当大学図書館の特徴が少しずつわかってきた．英文学の文献や洋書，キリスト教関係に充実している．洋書はなかなか手に入らないので本当に貴重な資料源となっており感謝している．英語以外の言語の図書も１階（館外資料室）にあるが，これらは目に触れる機会がないのでコーナーを設けて一定期間ずつ展示するなどの工夫があればと思う．特に，第二外国語の仏語，独語及び羅語の文献を別館に閉じ込めておくのは惜しい．また，図書の種類に応じて貸出期間を調整してはどうか．洋書を一週間で読むことは少なくとも私にはできない．

大学図書館はユニークであってほしい．カトリック大学として，様々な言語で書かれた聖書を取揃えたり，聖書の原典であるヘブライ語やギリシア語を独学できるよう図書を充実させて

道徳香織（短国１年）

「趣味は？」と聞かれると，私は大抵「読書」と答える．他に趣味がない訳ではないのだが，やはり一番最初に口をついて出るのは，読書という答えである．だが，私にとって読書とは単なる趣味の域を越え，毎日の生活の中でなくてはならないものとなっている．

私は人一倍好奇心が強いため，知りたいことやわからないことがあったら，それがどんなにつまらないことでも，それについての本を読むなり，辞書で引くなりしてその問題を解決せずにはいられない．常日頃，そうした生活をしているなら，さぞかし学業の方も……と思いたいところだが，残念ながら私の関心事であり，興味をひく事柄は，学校の勉強とはあまり関係がないことが多いので，増えていくのは高尚な知識などではなく，雑学ばかりなのである．

そうした私の好奇心の源は様々な分野に散在しているため，そのニーズに応えてくれる蔵書を持つ図書館に巡り会えたことは，私にとって無上の喜びである．そして，その喜びを噛み締めながら，日々，図書館に足繁く通っているのだが，この図書館のシステムで一番驚いたことは，利用者が依頼した事柄を司書の方達が調査してくださるということだった．―― ある日私が以前から知りたいと思っていた自分の名字の由来を調べていた時に，わからないことがあって，司書の方に少し相談をしてみたところ「私達で調べましょうか」と言ってくださったので，すぐにお願いしてしまった．結局は不明であったのだが，色々と骨を折って頂いた司書の方々に心から感謝すると共に，こうしたシステムなどをこれからも上手く利用させて頂こうと思っている．また，この在学中に更に読書の幅を広げ，質を高めたいと考えているので，司書の皆さま，これからもどうぞ宜しくお願い致します．

浅利久美子（文国４年）

「見たい本を自分の手で書架から取ることができる」「落ち着いて閲覧できる空間がある」一見あたり前のようでいて，そこには管理側の心遣いと利用者への信頼感がなければできないことであると実感しました．

先日，機会があって私は東京の某私立大学の図書館へ行ってきました．そこでは目録をひいて請求用紙に番号を書き込み，希望の本を持ってきてもらうという形式でした．もし自由に閲覧できるのであれば，関係の書架の前に立って何冊もページをめくることができるのに，一度に４冊までしか請求できないので，請求用紙を書く手間とその度ごとに足を運んでいただく職員の方に申し訳ないという気持ちで，思うようにはかどりませんでした．どのような理由で各図書館が手続きのシステムを決定しているのか私にはよくわかりませんが，今回のことで，いかに藤大の図書館が解放的であるかということを実感したのです．

また，閲覧室についてみても，藤は整った環境であると思いました．私の言う環境とは，特別立派な机や椅子ではなく，貸出カウンターや書架の横にある『花』のことです．私は「植物観賞」を趣味としているので殊に敏感なのかもしれませんが，必ず館内には植物が飾られているのです．先週は「むらさきしきぶ」がありました．春には春の花，秋には秋の花が目を楽しませてくれます．沢山の本を抱えてレポートに追われながら，ふと顔を上げれば季節の植物が目に入る……何て素敵なことでしょう！そんなさりげない心配りも，やはり，藤ならではのことだと思います．

一度外に出てみて，実は今まで自分はとても恵まれた環境にいたのだと感じました．最近は残念な事件のことも耳にしますが，今後もこの環境を維持し続けるためにも，利用者一人一人が責任を持ち，マナーを守って利用してほしいものだと思います．

板東忍（文英４年）

私は，現在本校に籍を置いておりますので，「開かれた図書館」としての図書館を外から捕えることはできません．ですから，あくまで，一学生として，本校の図書館に対して持っている感想を述べさせていただきます．

学生として図書館を利用していてしばしば感じる事は，閉館時間が早いことと，一度に借り出せる冊数が少ないことです．図書館に対してあえて苦言を呈するとすれば，多くの学生がこのことをあげるのではないかと思います．

学生の多くは，レポート等を書く場合に図書館を利用すると思いますが，そういった折には，本を一冊全て読むことがあまり必要とされず，

— 利用者の声 —

むしろ，多くの本をほんの何頁かずつ読むことの方が多いものです．そこで，我々は，コピー等を利用するのですが，学内のコピー機は割高ですので，たいていの場合は外に持ち出してコピーをとります．しかし，普通の貸出で一度に持ち出せるのは5冊までですし，一夜貸出は4時まで待たなくてはなりません．これは，かなり不便だと私は思います．

私は，できれば，指定図書以外の一夜貸出をもっと早い時間からにしていただきたいと思います．あるいは，例えば2時間なり3時間なりと時間を限ってでも，もっと多くの本を借り出すことができれば，学生にとっては更に便利の良いことになるでしょう．

勝手な事ばかりを書きましたが，どのような立派な図書館でも利用しなくては意味がありません．学生にとっても，他の利用者の方々にとっても，より利用しやすい図書館をつくって下さるように，館員の方々の益々の努力をお願いいたします．

初めて藤の図書館に入った時，本の多さに驚きました．広いフロアに専門の本がびっしり．そして，食物栄養科のための部屋，英文科のための部屋のように，一つの部屋にも，びっしり本が詰まっています．さすが古くから伝統のある学校だと思いました．建物は古いのですが，よく整備されて使いやすいので，利用したい本を探すのも楽です．レポートを書くときなど，いつも2，3冊借りて書いていました．専門の本が沢山あり，目移りしてしまうのですが，めぼしい本が5，6冊はみつかってしまうので，どの本を参考にするのかにいつも迷ってしまいます．調べものをするとき以外に本を読みたいときにも沢山の本があるので，学生時代だけでは，読みたい本は読めないだろうな，と思ってしまいます．古い学校なので，古い本や作家の本が多く，最近の本は少ないので，少し残念です．あと文庫本がとても少ないので，荷物が多いときは，もっと文庫本が多ければいいのにと思ってしまいます．

職員の方々もいつも笑顔で，本を借りるときいつも笑顔で対応してくださいます．朝の9時から5時30分まで，長時間なのに，朝一番に行っても閉館まぎわでもいつもニコニコしています．特別変化のない仕事だと思うのに，本当に本が好きなのでしょうか？

来年は学校が移転することもあり，本がどのぐらいうつるのかわからないので，今のうちに沢山読んでおきたいと思います．職員の皆様，これからもがんばって下さい．（匿名希望）

カットは安野光雅絵
「カットのエスプリ」
より転載しました．

＜1991年度　購入希望により入った本＞
（一例）

『インド夜想曲』　アントニオ・タブッキ著
須賀敦子訳　白水社　1991　(973/Ta12)

『シューレス・ジョー』　W. P. キンセラ著
永井淳訳　文春文庫　1989 (A933.5/Ki46)

『五番目のサリー』　ダニエル・キイス著
小尾芙佐訳　早川書房　1991 (A933.5/Ke67)

『午前零時の玄米パン』　群ようこ著
本の雑誌社　1990　(914.6/Mu67)

『かぜのてのひら　俵万智歌集』　俵万智著
河出書房新社　1991　(911.168/Ta97)

『天才えりちゃん金魚を食べた』　竹下龍之介
作・絵　岩崎書店　1991 (376.19/Ta65)

『左岸より　1980年代のエッセイ集』
倉本聰著　理論社　1991 (914.6/Ku53)

資料紹介 ── センダックの絵本

＜モーリス・センダックの夜の世界＞

『センダックの世界』
セルマ・G．レインズ著
渡辺茂男訳 岩波書店
1982 (726/Se591)

夜，目覚めると辺りの暗闇がいつもと違う世界のように感じられることがある．センダックの絵本『かいじゅうたちのいるところ』と『まよなかのだいどころ』は，そうした夜の時間の不思議さを表しているように思える．

『かいじゅうたちのいるところ』

狼のぬいぐるみを着たマックスは，ある晩大暴れをして夕食抜きで寝室へ追いやられる．すると，ベッドの回りから木が伸びてジャングルが広がり，ヨットに乗ったマックスは怪獣達の住む島に着く．マックスの空想がふくらむにつれて絵本の画面も大きくなり，マックスが怪獣達と「かいじゅうおどり」をする場面では，絵だけが見開きで三画面に渡って続いている．細密なペンのタッチで夜の影のある雰囲気を漂わせる一方，怪獣達を，大きな頭と目，丸いお腹というユーモラスな姿に描いて動きのある画面を構成している．言葉はなくても，その絵からはマックスと怪獣達が踊っている音楽が聞こえてくるようだ．

『まよなかのだいどころ』

上記の作品とは対照的に，この絵本では夜のにぎやかさが描かれる．三人の太ったパン屋さんが，明日の朝のケーキ作りをしている台所にミッキーは飛び込んでいく．ミッキーとパン屋さんが唱うリズミカルな歌と，太い輪郭線の中を平塗りした描写やジャムやイーストの箱から成るバックのビルディングなどがポップで明るいアメリカの夜の雰囲気を醸し出している．

＜モーリス・センダック Maurice Sendak＞

1928年，アメリカ生まれ．病弱で友達の少い子供時代を送る．最初はさし絵画家として出発したが，1955年，文，絵共に自作の『ケニーのまど』を出版．1964年『かいじゅうたちのいるところ』でコルデコット賞受賞．その後，1970年，国際アンデルセン賞，1983年，ローラ・インガルス・ワイルダー賞を受賞した．他の主な作品は『とおいところへいきたいな』『ふふふんへへへんぼん』『ミリー』『ねずの木』など．

（松岡ゆき子）

*下線の本は図書館にあります．

資料紹介

復刻版「紅苜蓿（べにまごやし）」
全7冊 (1907.1-7)

明治40年(1907年)1月，函館の文学同人苜蓿社の人々により創刊された月刊誌．主宰には当時靖和女学校の国語教師であった大島流人（経男）が迎えられ，誌名，表紙図案も手がけた．

この雑誌で特筆すべきことは，創刊号より石川啄木に原稿を依頼している事である．当時啄木は，処女詩集『あこがれ』の出版（明治38年）によって，天才詩人として注目されていた．啄木は創刊号，２号に詩を発表し，５月５日，新たな生活の糧を求め，来函し，同人に加わった．

６号より大島流人より編集を引き継ぎ，入社の辞を書いている．誌名も「れッど・くろばあ」と改称した．６号には５篇の詩を，７号には小説「漂泊（一）」と西方左近の別名で「曽保土」と題し，短歌18首を発表した．８月25日の函館大火により８号の原稿は焼失し，「紅苜蓿」は７号で終刊となる．啄木自身も９月13日札幌へ移り，小樽，釧路への漂泊の旅が始まる．石川啄木と北海道を考える上でこの文芸誌「紅苜蓿」の存在は大きい．

この復刻版は，市立函館図書館に所蔵されているものを，同図書館の協力を得て，財団法人函館市文化・スポーツ振興財団が復刻出版したものである．

《お　知　ら　せ》

冬季休暇中の開館日，開館時間は下記のとおりです．新学部開設準備作業のため，開館日が平年より大幅に少なくなりました．詳しくは掲示板をご覧下さい．

<開 館 日>　12月16日（月）～12月17日（火）
<開館時間>　9:30～16:00
<閉 館 日>　12月18日（水）～１月14日（火）
長期貸出は12月9日（月）より開始します．
一夜貸出は12月16日（月）11時より開始します．
一般貸出は一人10冊まで借りられます．
一夜貸出の冊数制限はありません．

楽しい冬休みを！

藤女子大学
藤女子短期大学　図書館だより　第40号　1991.12.1

発行者　札幌市北区北16条西2丁目　藤女子大学図書館
TEL 011-736-0311(代)　FAX 011-709-8541(大学総務課)